



「疾風に勁草を知る」～「チーム霧が丘」の力～

小学部副校長 岸 俊介

5月25日の非常事態宣言の解除を受け、横浜市教育委員会からの通知をもとにして、6月1日から段階的に学校を再開しました。

「2か月に及ぶ休業期間からの再開」「感染予防をどう行うか」「段階的な学校再開をどう行うか」「学習をどう進めるか」「子どもたちの心にどう寄り添っていくか」再開にあたって解決すべき課題は山積みでした。教職員は何度も話し合って準備を進めました。

◆学校の新しい生活様式 霧が丘学園スタンダード(健康管理)を作成◆

児童生徒が安心して学校生活を再開するために作成しました。横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン、厚生労働省、文部科学省から出されている資料を参考にしました。この「スタンダード」が本校の感染予防、健康管理の中心となる考えになっています。

◆手洗い、換気の励行、マスクの着用、教職員による消毒◆

せっけんによる手洗いを重視しました。小学部では手洗い場が「密」にならないよう、足元に目印をつけました。教室は2方向の窓を開け換気をしています。空調機器を使用している場合も1時間に1回以上の換気に努めています。児童生徒はマスクを基本的に常時着用しています。しかし体育時や熱中症などの健康被害が発生する可能性が考えられる場合は、児童生徒間等の間に十分な距離を保つなどの配慮をした上ではずすことも考慮しています。登下校についても熱中症予防の観点から、前述のような指導をした上ではずしてもよいと伝えています。

児童生徒の下校後は、教職員が協力して教室のドア、机、スイッチ、トイレ、手すり等大勢が触れる場所を消毒しています。

◆「チーム霧が丘」児童生徒の協力、ご家庭の協力、地域の皆様に感謝◆

「分散登校」「新しい学校生活様式」…。学校にとっていまだかつて経験したことのない取組。どうしたらうまくいくのか…。何度も何度も教職員で考えシミュレーションし、準備しました。スムーズな学校再開を図れたのも、よく話を聞き、進んで「スタンダード」を理解し行動してくれた児童生徒、おたよりをよく読み、協力いただいたご家庭、登下校の見守りなどの支援をいただいた地域の皆様のおかげだと思っています。学校・児童生徒・家庭・地域が一体となった「チーム霧が丘」のすばらしさを感じました。

◆「^{しっぶう}疾風に^{けいそう}勁草を知る」～「チーム霧が丘」の力～◆

「疾風に勁草を知る」…はやい風が吹いて初めて強い草が見分けられるように、厳しい試練にあって初めて意志や節操の堅固な人間であることがわかる(大辞林)。

誰もが体験をしたことのない今回の事態。まさに厳しい試練、「疾風」です。「チーム霧が丘」の一人ひとは、「新しい学校生活様式」を守ることで、協力することで、他者を思いやることで、それぞれの役割を果たすことで、その「疾風」に強く強く立ち向かう「勁草」であったと感じました。

今後の困難も「チーム霧が丘」で知恵を出し合い、協力し合うことで乗り切っていける。そう確信するとともに、わたしも「チーム霧が丘」の一員として頑張っていきたいと思いました。